夫木和歌抄

巻七

和書門
二八三八八 號
七六 函
一一 架
三七 冊

内閣文庫
和書 類
二八三八八 號
三七 冊
二〇一 函
一 架

内閣文庫
番號 和 28388
冊數 37 （ 8 ）
函號 201 1

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

夫木和歌抄巻第七

夏部一

歌

更衣　首夏　餘花　新樹

卯花　神祭　葵　賀茂祭

早苗　五月雨　菖蒲　樗

花柑子

更衣

冬歌百首　皇太后宮大夫俊成卿

なれくれし花のたもとをぬきかへてやまころのころもさらにこそ

一字百首　寂蓮

羽とはくこそ卯月のけさのあひそめてまつさらにさらにさらに

前中納言定家卿

正治二年百首　慈鎮和尚

わかのさくねとなりしやぬきかへて卯月のころもそきよし

内裏更衣　後京極摂政

さかひ見し小ゝしころもぬきかへてふしころもとこそのかはの

六百番歌合更衣　中務少輔

たちかへりかすみハ雲よりよそのあさみつゝけしきもみえて

建長八年百首歌合　正二位忠定卿

わかれにし花のなこりをこれらはとかくかたみの袖ハきのふもちらし

六帖題　更衣　従三位範宗

ちる花の色をおしみし衣をも人いまはぬきかへそかはるときとて

宝治二年百首　更衣

けふはやこれのつきのかけしらそ袂のやしなゐ色衣はちりつ

更衣　よみ人しらす

夏衣ちらさぬ花をおしむとも

為家卿家百首　更衣　従二位家隆卿

花のいろにそめしたもとををしむ人やまほとゝきすまちかねつらむ

持年新作百首歌中　後九条内大臣

こゝろにそまむ衣の人はいますかりはさそおもかのゐこす

文応元年七社百首　民部卿為家

袂たにかはるもきのふやすきのとしもとゝきす

花そめし袖のなこりハ惜しからて袂の衣よろこはさる

貞応三年百首　更衣

桜いろにそめし袖のうつりかもうすくなりゆく世をのこし衣

建長三年毎日一首中

さと人のころもかへせぬなかそてそ

堀川院御時百首　権僧正永縁

やまふかみきのむしろとぬきかへてせミのもろこゑあきそふきぬる

百首中冬歌　権僧都源信

冬衣いくへかさねてもかはらすさむきよのひなかれ

田舎冬歌　源仲正

かりくれハしつのあさきぬさえさえてうかれかね中にこそ冬なれ

首夏

天暦五年亭子院屏風　貫之

花ちりしとこにかはりてひとへなる夏のころものたちかへれから

家集夏歌中　好忠

夏ころもすこしいきのたつてのまふくハやまひとのすかたなるらん

夏歌中　花山院御製

春の色のきぬてさへつゝしなかきひさこの山郭公こそなけれ

天暦二年二月卅日家歌合　勅文

まつひとしらすす

いつしかとさとにふかくきえ入るさのあをはゝかれなさき山

家集首夏歌　源仲正

ならひあるかくさめのしらのくもに中あしたゝかれ(?)ハきけり

久安百首　前大納言隆季卿

おもしろきなにはたゝりけるよのさやけさにかへしのあまのここち
前参議教長
よもすからさとのこゝろにかよふらしあかつきしもゆくとこと
四月百首詠氷　参議雅経
まちえてやきりのゆくへにいのちはへしらぬことにかつき月まてよ
内大臣
ゆふさむきひかりのうへにみえてさえしかよるのかゝる
思屋入道摂政家百首　民部卿成家
こゝろをやりしきまちつらふかへてうつらはなれにかゝるら
建保三年名所百首　前中納言定家
たつ井川かすみぬれたのなかのれさへよつきかきよるにもへ
同五十首歌合　後京極摂政
このゆくてふゆにしおとにの国のやまかひてつかさの曙
正治二年百首
あれにさみとりふかゝりやまししさきの山もかすきそみかの人
夜之中宮亮抄　加茂重保
けさこれはなすとの衣ぬきかへて山もひとつもすみよと也
百首歌中詠首夏　後九条内大臣
夏人の袖にさころもかへてなつさまたもしたるまとの山
建長八年百首歌合　従二位行家

外山のしはのそてうちてさらにすゝいつの月ハさやけかり

たきかはやまさふとくまて霜のひさしかくたりこらはてさしき　右近中将具氏卿

六帖歌よミ侍し　権僧正公朝

くものゐるにゆふつきそれの色もうつろふさかりとこゝろえかり

続集首夜　前民部卿為家

かきくもりさそひにあへぬ花ちるや衣はそてすゝしき

寛治二年百首之内　前相内府

ゆふくれやかり衣ほしうちへてまひとつるよはの月の衣

千五百番歌合　寂蓮法師

秋へこれハいかにすへきの衣そかさねて見へきりのとこのかりしにかり

伊呂波四十七字建久二年　前中納言定家卿

あさとの地によたつの色そとハかへてかり山の見えてもりとはつといふる

文治二年百首

なにとなくすきにし花をそのかけしすまひ　ものさしゆかそ

建保四年百首

このえのくしはハのとかりあハしてしろきのこゝろかすかすゆ

百五八首類家

たゝくさ見ハ秋よりさぬるての月もまちみちも地もかけの

光明峯寺入道摂政家百首之内

のかれをもあまるにやらぬ花ゆゑの山もとほのかすむころの月

正治二年百首御会　後鳥羽院御製

ちらすなよ春のかへるこのころやあまつをとめのさくらかざさん

餘花

百首御会　順徳院御製

瀧のこのたえまにつもる風の井のさくらちりてはたえすもとしもなをちす

寛治二年十日百首御会　後九条内大臣

あしひきの嵐の山も見えそめ桜みやこをしらぬ春やのこれる

建長八年十日百首歌合家隆

よし桜ありともやがてかへる人の家かはりにたえぬ春のなごり

東家山路花　前参議雅経

たちのこる春のいろや山かげのあたりをまたちらでかすみにけれ

高根山のむかしにさく桜春と見ゆるやあまさかるせき　慈鎮和尚

新樹

首夏雨新樹　後一条入道関白

百首前
ちりはつる花のあとゝふすゝしれてあをばのやまにあめよふる

千五百番歌合　従二位家隆卿

山はしもとはもあらしのうはお山あをばにしげるつゆのしたくさ

文集百首新葉深深綠　前中納言定家卿

かきくらしたえまのみねしはし八日にあひて雨もよにしの花そちるさき

建長三年毎日一首中　民部卿為家

たつたひめのさくらの花の雨もよにちりかゝるよはもとのさくら花ちる

嘉禄四年百首御歌樹

ちりそめしさくらの枝まさきにもせてさくらさくらんすゝりのかへそれ

六條院

信実朝臣

さけはちるはなのさかりのつくえてちりあひしとおもふよにゝさくらん

百首御歌

慈鎮和尚

さくらえそおもさひとゝまる花山寺のかせをまついくつしれ

いさすましさくらのこちのとやりとたちにおもひつきのかの里

六百番歌合御樹

あはれにも秋をとこのねかへてわかさくらの花をはなのちるゝそ

後京極摂政

ひとりぬるとこのうへにそもる人まてしはしまつよにかへのさくまよ

前中納言定家

さけはさくちるへきさくらそみるゝはなのさくらにちるさくらのゝさくらさき

寂蓮法師

さくらさくはなのさかりとをしむ人あけのはやさくらのこすゑちる

隆信朝臣

あさけはちるさくら秋のもみちみちそめてちるさくらさくさかりのこちのひのよ

家集夜のはなつきのうのはなといへる

内記為長

わひしさは夜のましろのさかりきにうつろふしらきくにまさるとまて

卯花

百首御歌

慈鎮和尚

この比はさらし衣をかけてよむ卯の花かきに月をこほるれ

老若五十首歌合

後京極摂政

さとへのうのはなさかりなる山かけの月と雪とのむらしきそとよ

建長元年百首卯花

後九条内大臣

よそさうくさき下よりすくのうのはなやぬるし雪けの水のおとまて

従二位行家卿

ちらぬ間はなほうへなしへの名をそへてうつもる吾のうのはな

家集水辺卯花

西行法師

たま川のきしのうのはなさきにけり八重なみさくにまかふ卯花

正治二年百首

前大納言忠良卿

これやこのみきのちかきの里すみにかきねにつゝくうのはなかき

文永二年中務卿親王家歌合

従二位行家卿

うつろかやうつせくる山のさはみちのうつしすてかもさかりにかゝりて

弘安百首

前大納言資季卿

さゝまくの岸のいほの卯花さきにけり雲のかよひち月そのこれる

正治二年百首　三条入道左大臣

あしひきの山あゐにすれる衣よやうのはなにしらかけすらん

久安百首　花園左大臣家小大進

うの花のあたりをあかすてらしつゝにきはぬれはかくてせきのかけそ見えける

千五百番歌合　土御門内大臣

神まつる卯月になれはうの花のうきをもせきの衣ほすてふ

法橋顕昭

ぬれ衣ほすとやみれはしらかへのう花さかりあまの袖かき

堀河院御時百首卯花　中納言国信

うのはなやさかりなるらんしらくものかゝりにみえのやまのはこゆるは

俊頼朝臣

うの花も神のひもろきさえてかゝりつゝいかきもたわにゆふかけてみゆ

権僧正永縁

かみなとのかきねにさけるうのはなはたゝよきなかのなみかとそ見る

永久三百六十首中　好忠

きゝすなくかたのゝはらのうのはなもはやさきぬらんとかねてまちかね

うちさらてこよひねのはさすむこゝろしかきねのさかりなる

延喜十三年三月亭子院歌合

よみ人しらす

卯のはなのさけるかきねは白雲のおりゐるとこそあやまたれけれ

家集夜亭　大宰大弐高遠卿

しら波のおりかけたるやとのかきねとみえてまてさけるうのはな

源仲正

やまさとのかきねのひまもむら雨の雪ふりかくしてさけるうのはな

天仁大嘗会　藤原正家朝臣

わかをこすひとこの里をとへはうのはなさきてちるへしさまれ

家集　正三位知家卿

ゆふつくよとをつの山のこくれともいろさやかにさけるうのはな

卯はなを　後葉　よみ人しらす

みとりそめぬときはのすゑともゆふかけて女の里はさかりなるかな　卯

家集　鴨長明

うつしやかのひとつきさきなかりけるとかりかりかうまさはなに

家集　寂林　恵慶法師

こ門のかたをまきさしれなの松に雪とゆふかけてさくうのはな　花

正三位知家卿

うのはなのさけるきしやしら浪のよするかとみるはかりは見ん

新和歌　新深宗　祐盛法師

しらくものたえまかや間はうの花のさかりなりてそよそにはみゆれ

家集　俊頼朝臣

うれしのはかりまかるらんハ志らくもの花さそふやまかせのおとにもちらぬころ

うのはなのさかりなれハやそのかたにとまりもするに花かさとおもへハ

家集 卯花似久雪　前中納言匡房卿

けさミすハ夜のまにひとよりもまたかたみのさとにはふるゆきのかと　うのはな

正治二年百首　前大納言隆房卿

やまかつのかきねのゆきとみえつるハうのはなさける月よなりけり

正三位季経卿

これもまたうきよのはるのはなのいろの月かけさやかにはれたるそのやま

家集 式部卿宮村上御時歌合　兼盛

ゆきのうちのやまふきのはなもしらぬかけしらぬやまかたのさと

永観元年一条大納言家障子に読る　元輔

うのはなのかきねにあらぬかたをたちまよふはなのかけのやまちかけ

久安百首　前参議親隆卿

かりそめにひとつかはなのさきそめてなくひとこそのやとこそあれ

永久四年鳥羽殿歌合に卯花　中院入道右大臣

ひとめもとほくなりゆくかきねのうのはなのかけのうちにしもしのふかも

家集 卯花を　俊頼朝臣

うの花のさいてらくしかきねの中にもさきそはいさとこしり

うの花はいはぬことなきよりはかれと色ちてはぬれぬ物からなそ

名所歌中詠くよ　衣笠内大臣

新六

ちろくへのかさゝのはさかりうの花よりてかされるゆふつくよ哉

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

ゆふつくよあやしくしろにさやけきは卯花さける山ちなるらし

祇園社百首

ゆふつくよかけりそへたる山人のつま木のうへにさけるうの花

土御門内大臣家会　前中納言定家

ゆふくれはいつのかたもとまりえてうの花さける白河の関

久安百首　大炊御門右大臣

このはなのよつゝみさゝきぬれはそれ白河のたきなみ[illegible]

永久四年四月鳥羽殿歌合　季通朝臣

こえすらん人しなけれはうの花のさかりにおもやる白河の関

寛平中宮　平経正朝臣

ちらさはさしのうの花ちる雨はさかりぬるまてさこえたらなむ

名所歌中卯花　中務卿のみこ　宗尊

あふ坂の月やこれも波のよるらん[illegible]卯花

長治二年七月歌合　よみ人しらす

卯のはなのさかりなるらし山かつのすその里にかゝる白雲

法性寺入道摂政家百首卯花

民部卿為家

しろたへのゆふしてかけてみゆるかなすきのかきねのうのはな

天仁三年四月師時卿家歌合

源顕国朝臣

うのはなのさかりなるのをしにうつりてよるさへあけぬとおもほえるかな

右衛門督家歌三月四月合夜里

藤原忠隆

しろたへにさきかさなれるうのはなは夜の里のつきかとそみる

仁和寺入道二品親王家五十首

法橋顕昭

しらなみの山卯のはなはさきのしらゆふやまとにもさしかゝる宮のうちかな

建長八年百首歌合　後九条内大臣

みなのとをちかたのさとは卯のはなのいはぬもしらゆふ山のはにこそさくかとそみる

師時卿家歌合卯花似月

よみ人しらす

卯のはなの月のかけともみゆるかなよさのひかりにてらさるゝかな

嘉禄二年百首河卯花　民部卿為家

ひさかたのかつらのさとのうのはなは月におよはぬかはなみそたつ

永久四年鳥羽殿北面歌合卯花　　右京大夫顕輔卿
あさ日山ふもとの里は卯の花をさらせるぬのとおもひけるかな

百首歌　　兼昌法師
う花のさかりとみれはおほゐ山ふもとの里よさしね白雪

弘長百首卯花　　常盤井入道太政大臣
ぬのさらすうちのさとのかきねよりさきつゝくらむ卯の花

大嘗会悠紀方風俗歌大蔵山　　皇太后宮大夫俊成卿
ぬのさらすおほくら山の卯の花はなみにさけるとみゆる成けり

五社百首
賀茂卯花
中河やかきねにさけるうの花はかけてよするなみかとそみる

志賀山のゝへにさくといふ卯の花はなみのよするとゆきかとそみる

百首歌漢卯花　　前中納言定家卿
くるさのきぬをかへてやなくにほの夏のあらしにさらすらむ

光臺院入道二品親王家花十二首
ほとゝきすきなく山の里にはさしもかゝるうの花のさかりなるかな

百首歌漢卯花　　従二位家隆卿
卯の花のさかりはつゆもしらゆきのうつろふやまのかたのゆふくれ

百首歌中卯花を

うのはなのさくやまさとにすむ人もおなしかきねをいてん

山家卯花をよめる

卯つきまつしたたにかけてさくはなのしらかはさとのゆきのやまかけ

前大僧正慈鎮

光臺院入道二品親王家五十首杜卯花

あさことにかきねをうめる卯のはなはゆきにまかへてさかりなりけり

前中納言定家

百首歌

さわの山まとゐせしまのかきねにそしらすさかりのはなのしらゆき

慈鎮和尚

よめる

従二位頼政

神まつるころにもなれはうのはなのかけさすさかのしろたへのかみ

光臺院入道二品親王家五十首杜卯花

家長朝臣

いさやまたやまとのみちのうのはなのさくらにまかふしらゆきのやと

従三位範宗

まつことはしろのやまのさかりにてゆきかとみえてさくうのはな

従二位行能

わか神のたかやまのうのはなゆきのまかきのしろたへに

前大納言卯花意

源仲正

いかにへやわかやとのうのはなのかきねをゆきもふりしく

五十首哥社卯花　　従二位家隆

神かきにさくらの花やあらそはんまたぬかたにもなひくしらなみ

春日社百首卯花　　藤原隆祐朝臣

うの花のさかりしひらゆふかけてことみゆるにまそかけてちる

詠五首和歌懐中　　まさ人もゝかす

神山のまさきのかつらくりかへしいやしくしくと稲葉のつもる

永仁四年四月当座歌合卯花　　藤後朝臣

神山のみねのさかきも花ゆへにゆふかけてかゝるさらしきぬかな

光台院入道二品親王家五十首社卯花　　従三位保季卿

うの花さくころしもゆふかけてみかけやむものいつしか神やらん

新源宰　　正三位知家卿

うちはへてさくやゆふかけて神かきはみなしろたへにさらすぬのかも

法印幸清

おほはらやをしほの山もやさけるうの花のさかりはゆふかけてかみのまつ

経家法師

うの花やかきねにさけるしらなみのよるよるかゝるかたのをかへ

承安五年三月重家朝臣家歌合垣根卯花　　良一法師

行かよふ人もたえ／＼山の雪はおほえしいつよりさかろ かのさと

百首歌 慈鎮和尚

かのさとの萩か花さく風やとふらんけふもみやこに露そおく かのさと

從二位家隆卿

あさのゝとは松のあらしにきこゆなりかのさとのかはなみのさと

土御門内大臣家十首歌合 藤原雅卿兼

寂蓮法師

うれしさのかきりかくれやらてくさのとさくみよさかの さと

承久二年四季百首 前中納言定家卿

夜かよふ月のかつらもそてかよひけさをみるかのさとの比

伊呂波四十七首

かの山やまこえて雪とそてうれしむわらはたのかみのた

弘長元年百首卿 民部卿為家

さくらさくやとはきよしかのさとの中ゆけはまたすさかの かのさと

山階入道左大臣家百首 夕卿

あらしへの花のふるさとのかけふして夜かさまよふ夜のしと

文應元年七社百首卿

かのさとをゆきたはふれてふひのくれのやかてほとゝきすかな

すみよしのきしのかのさとてよにせてくみぬかさつ白波

家五十首歌 社卿 光臺院入道二品みこ

すみよしのゆふしてかけてひく松にかさしをとなにかうへてかけむ

弘安元年百首　後九条内大臣

をとめこのそてふるさとそみゆるやへかつらかきねにさけるうのはな

永久四年四月鳥羽殿北面歌合卯花　大蔵卿行宗

一 しらくものはすゑの松山こすなみはみえさりけりひとつかきねのむ

四条家卯花といふことを　皇太后宮大夫俊成

をやまたのいほりのかたにかけてける月まつかけのうのはなのころ

弘安二年管領文百首　安嘉門院四条

河しらぬよしのゝはそめぬるうのはなをとこなれてこそゆきかとそみる

百首中卯花読歌　寂蓮法師

うのはなをとほきしのやまのしれはいてみるかたにとかりなかる

文治三年百首　前中納言定家

あさゆきやこてまとりそてかまへつかれむやへのうのはなのむ

一日百首歌中

やま里のかきねのゆきさかれてすきゆくかたそあはれなる

天仁二年内大臣家歌合卯花　藤原敦隆

とちころのかきねのよきさかるうのはなはゆきたにけぬるふるさと

隆源法師

おもしろにゆめさむる卯のはなとさかりてひとしへよしや
永久四年五月歌合 おなし 清輔 今関白家淡路
白妙のかきねやこれとそかんこのとれかとみえぬるのも
建長八年百首歌合 信覚朝臣
かきさかるうれもりさとまうすとくるりつりてもなれ
洞院摂政家百首郭公 藻璧門院但馬
とのれのきこやゝよみちかたにうのえ山のかけの月に
常盤井入道太政大臣
うのはなのさくさとのうへは月かれはよこまつ山ほとゝきす
建保三年内大臣家百首郭公
従二位家隆卿
うの花のさくさとのうへの郭公ゆかしやまた有明の月よりすき
葵 郭公 よみ人しらす
百八 あふひくさかけしかつらの卯の花のかけもしのふるあれやまつ月 きよます
神祭
正治二年百首 小侍従
日かけさすかものむやまのそのとなれのかぬ神まつるらん
百首歌中 衣笠内大臣
神まつるうつきのはなのえたやくゆふかけてけり山かつらかな
六帖題 正三位知家卿

新六一
秋まつかせはさきのしらつゆのゆふへにちらすこかせそちる
信実朝臣
新六二
ちるやふるさと月のかけしめあしたそこさのちるもとをみちやうつる
六帖 秋まつり 権僧正公朝
さかき葉にまそての志てのゆふひかけてかはあすしもそふる
家集 秋祭
神さふるかもゆふかけぬつきてまさる夜とむすけのぬさにあれはまつる
葵
百首御哥 順徳院御製
うれしくもまつのとやこのあふひくさかけてまつらむちとせまて
あふひ 光明峯寺入道摂政
ちはやふる神よりさきとかつらよりかけてとこしへ
光台院入道二品親王家五十首 従二位家隆
わすれめや人のこころのちかひにはあふひのうは葉まつ
光明峯寺入道摂政家百首 葵 前大納言為家卿
神まつるけふのこゝろをあれなるしをきとてよりけてかけや
葵 中原師光朝臣
そのかみにかへらぬけの山のおとにはさつるにはあれのきはかそへる

永万二年八月経盛卿家歌合　月　清輔朝臣

おもひやるさやみかけの山まてもよは月のうへとなかめられけり

新葉集　夏　中務内侍

うつりゆくかけの山のはとりへてさらにけさやかにうつるなりけり（さんとれ）

家集　貫之

人もみぬかつらかさしてちるやかる神のこゝろはおなしひかりか

続詞花集　六条右大臣

うつりゆくひかりよはあかすおもひ人のそてにあかさのみえけり（おもひそ）

この歌は四月月峯のうたに二もとの大すさをそへてしき

こゝろにもあらてうき世になからへはこひしかるへき夜半の月かな

堀川院御時百首　夏　仲実朝臣

神山のふもとのおもひこそまつかけのみあれによるらん

家集　周防内侍

まつことのいろもかはらぬまつのまのあなうけしとや（きこえて）

この歌は院御時杜鵑をよみていれておもひ

まつらんとてまちとこそ

家集　夏　平経正

たちとまるやよいのこゝろのあかつきのこゝろさへなほをしてはされ人

承久二年四月五日内大臣家歌合　夏

なみこれにうけてくたぬ人そちかきあふひそ秋のこゝろしらる

久安百首　花園左大臣家小大進

うらやまし入日のかけはさすかにはなれぬつゆをたにかけしあふひのすゑは

韻字百首　自樵白中閑家鏡草梧桐秋夜巻

風爐　前中納言定家卿

かはらこゆるひとへの衣かるすひくあふひもすゝしきころをまつ　うすき

文治六年女御入内御屏風賀茂祭下御社鍬形葵

付ける人あり　三条入道左大臣

みなせかはわかれもあらぬひとつさすかのむもろかの秋の花の色に

寛喜元年女御入内御屏風人家ヲ樹陰ヲ翫

懸葵　西園寺入道太政大臣

もろかつら日かけやそゝきたにかくれなくてもすゝしかりのゆ

民部卿為家

秋まつるこゝろにねかしかはとくたれとへあふひのゆつりそき

従二位家隆卿

あふひくさかけかけそめたるわたりけりこのうちの色秋のはれ

此命式須まちかつとりそめたる家ひと

文永元年七社百首　民部卿為家

いはくみや色わたしのきさしけるさへあふひとりそへて　まつれ

歌集　前中納言定家卿

かつらきのみねにしらいろつゝまつよかゝる雲のすゑはれなるらむ

嘉禎四年百首加茂奉納　民部卿為家

あふひくさかさしかものかけしきすゑそれまてもいとしとのとさき

文治六年五社百首奉　皇太后宮大夫俊成卿

あはれなるくさの中にもとりわきて秋のゆふくれそひとれかなしき

いかなれは日かけにむかふあふひくさ月のかつらのえたをさすらん

またしらぬけふのひよしのかけつらにかけしものとあはれ葵かな

風雅集　葵をよみ侍りける　後一条入道関白

よのなかにひかけりとしそしらくさもかたくかけしかつらとしけり

文応元年七社百首　民部卿為家

ちはやふるかものみつかきむすふともあふひをかけてあふせまつよし

神まつる日つきれなからおとろかれなれしかさしそいまもこひしき

百首寄日次首中　藤原為氏

かくやまや日かけにむすふあまあふひさかりてきさやからしかさしそ

柿本影供百首　従二位行家卿

みあれひく河のみなかみとくもなかれのやましなおもひかけ

千五百番歌合　前中納言定家卿

あふひくさかものゝへにてあかつきかけてこれさくらん

法橋顕昭

これそこのかさしかものかみのかくれあふひとしれ

寛元三年結縁経百首哥

民部卿為家

かも山のこのはとらくさいまはとて神のみやつこあふひかさらし

康和中堀川院御時百首

大納言師頼

日かけ山峯よりいつるひのひかりいく代神のみよをてらすらん

建長八年百首歌合　右近中将忠基

ひかけ山みねのさかきはいつまてもさかへて君をしるらん

従二位行家

かひさくらこのさかきのえたのまつりにさかへゆくかなあれ

堀川院御時百首　俊頼朝臣

みあれにはさかきをさしてかも山のかつらのみこそおもひかけゝら

山家百首葵歳之發　源仲正

ねにたかみさひやそれもしよさしなすあふひのかけにかそ

賀茂祭

六百番歌合賀茂祭　後京極摂政

雲井よりくれはつるあふひかすらのあふひ草いつくさせりけつかけのみち

前中納言定家卿

雲のうへをいつるつかひのもろかつらむかしよりけふのさかへぬ

大蔵卿有家

みかれてのよなかしぞそくつのつひさちくろりものかちさと

兼輔朝臣

むかしより山つきのえふかさそそうつそすしきりもみえき

従二位家隆卿

おつひ菜秋の夕へのきえへ雨のしよられきろうものかの

隆信朝臣

あすかきしくろものかなとへちくりむしささのやまと
そしさ

大納言兼宗

あすひとそきはくそとひりよもと契りてもまへりよりは

中宮権大夫家房卿

枝のささいけぬしくのむけもりありのひられきしあれど
もくへ

左方申云これはつくりは能てたる別歌勝同

日本人判者云右方古波ハいひかきされたる

やまと後よりやこあれハ一首のさささかさへまれ

ともさへりの由への事て徳其ハ同時之徳也

とてく

永久四年百首歌家　源兼昌

あ人のきしてくるかみひくさもうされのまてみよりきぬ

俊頼朝臣

ひきつれてやかろうしきふさそこれハいつさそ神のほし
なかりける

社　　　　　よミ人しらす

六二
ミあれひく引つれてこそちはやふるかもの川なみたちもこそすれ

京極　　　　　前内大臣

わきはのとやまけふあふひ草かけしるしあれとまちかねやかな

使　　　　　後京極摂政

さしもふるさかきやまふさつゝきたるかちらはあまつたもなすさきの

毎日一首中賀茂祭　　民部卿家

けふこそはみあれのひとなのちらさるを下のかもの社山郎を

ものみるの中に日ミあれひくとて

みれひくしミあれはつけてけふの神にくすくもまつとくる

葵　　　　　西行上人

昔みしミあれのあふひすれちかひかすれはつゝをくれそふ

永久四年百首賀茂祭　　仲実朝臣

きかくさのみかくのきちのこにをうみのミあれよあらぬ

平苗

文治六年女御入内屏風平苗　　皇太后宮大夫俊成

あをいろにやさしきのさなへよりたちはやはらかにさすこしのさひさゝそなへて

ひとつきのきみさのさなへのきみかとりかさうれしき

かけるくれのとりちはなをなるへくちりはそらにたかきかくれ

ゆふされはとかくの松もとにわれもなくなにはあらんなかのさと　さよ

住吉社哥　従二位家隆卿

さよへてみやこのうへもしろくらぬ地をつねていりよかぬ

家集九十首哥同郎云　西行上人

ほとゝきすしらぬかみにさとやまおとこのさとへもわまてそ　とら

住吉百首内哥　慈鎮和尚

さらへてすゝけのとさもなかしらさへなかるまてしなからすものえ　のさし

承久二年仁和寺宮五十首哥多　前中納言定家卿

うへのすみかとりはらへさとにこそのかさゝふのなりけりも　ゆき

文治五年十月百首哥

さよふけてむしのねやすらふさひしさにこのあけてたよ

忠良入道摂政太政百首　按察哥

民部卿定家

あはれたてしさるをかなしみのなかにへいてたる

あるしよのこゑきよきおとのなかへたつてぬ

建久三年式子内親王家續百首哥多

参議有家

とふくさかてくもれとりのさとへのかなしみぬれは　なりそ　なみさ

中務卿親王家哥合哥　権僧正公朝

見わたせはみやこのにしもてあへのゆふのしもさらへ　とらん

永承六年五月五日殿上根合早苗

式部大輔資成

さとわかぬ山田のさなへかりそてもはやくさなへやとるらむさやかせ

家百首夏部

民部卿為家

山かけや五月もまたすやりみつのけしきもみえてさなへとるらん

千首夏

さなへとる山田のそとのあさ衣いとゝ五月のあめにぬれつゝ

文應元年七社百首

五月きやよとのさとの水せきせてつねよりもとくさなへとるらん

百首夏

わかやとのかとたのさなへおいそへてははきのいろのひかりそへさなへとるかな

文永二年毎日一首中

さやかなるのかとのあさきみなかりてさなへとるらむ五月となるらん

毎日一首中

五月きぬはやさなへとれ山田のさなへしるくなへ河すゝしみ

みなとさく秋のさとのさなへまくらにさなへとるらむそのやとり

とをき山さなへのさとくさなへとりさなへのかけのあし

文永十二年毎日一首中

せきいれのなかれのすゑのさしつきさなへとるらみさなへかな

家集

隆信朝臣

[illegible]

従二位行家卿

[illegible]

[illegible]五十首歌合　陰明門院越前

[illegible]

[illegible]百首　鷹司院帥

[illegible]

宝治二年百首　常盤井入道太政大臣

[illegible]

[illegible]五十首歌合[illegible]

[illegible]

[illegible]

建長八年百首歌合　正二位[illegible]

[illegible]

従二位行家卿

[illegible]

六帖題　正三位知家卿

新六一

[illegible]

寛元四年[illegible]歌合[illegible]

[illegible]

従宮内卿

やましろのいはたのもりのこのつれにやましたとよみゆくした

後九条内大臣家百首

このしたはひとりのちとりなきそひてかすみのあさひさしのほるらん

建保三年五月仙洞歌合　又当

従二位家隆

さとのへのやまゝつかけのゆふ露はさそふへきかもつれなきそくれ

寛喜二年百首歌

光俊朝臣

わきもことこよのくもゝかよひてはやまにたなひくとしそへにける

入道中務卿親王家百首歌合　福堂

法印宗円

ひくらしはおのかさとにさそはれてなくやまかけのさとにほとゝきすなく

中務卿家百首歌　忠峯

かりかねのやまさとしらぬほとゝきすなにをまつとてなくこゑもなし

建長八年百首歌合　衣笠内大臣

やまかつのかくれかにしてほとゝきすなくこゑのやまはなけくなりけり

正元九年大嘗会後中国

賀茂縁義忠

ほとゝきすあかしのとまりかりのさきのやまかくれゆくなこりをそおもふ

家集

人丸

あすらのへそことものそく袖ぬれてそこ八くさのさう人こらつつこ

三百六十首中　好忠

みあれ川かものこらしらひきうへていのりつそしおくらとしめん

家集　通俊卿

玉葉
きう人くそり袖へうゆきこそわりやらふあさ八の山のかけしきれた

早苗百首中　仲実朝臣

万代
いろいろはへこゆきあひのわさのをしらつ麻須香井戸をこしふうた

家集　俊頼朝臣

あかれつらへのことわらかすそしてさらそのさらへとわ八出

後河院御百首

なつかへはこすのたさまりけどもるへていそし奥ふんへらつくりえより

修理大夫顕季卿

わさもこらすうらの田井とひきつれてたこのてまもすくらうさうへ哉

隆源法師

のこるさいろうさるてすにしあすらへたひもやとりてさる人こらてん

顕季卿家歌合早苗　仲実朝臣

きやまさふわさそへ雨すへこて分けさそりつわすをおわれてくらは

こまとひとしす

二
五月雨のあすへひきうふらへらてへをこひちまつわれそ出せ

久安百首　実清朝臣

ほとゝきすなきつる山のさとゝほみきゝつる人もなしといはれは

光台院入道二品親王家五十首中郭公

参議雅経

ほとゝきすゆふへのそらにしはしなけ[illegible]のそらよりきこえくる声

建長八年百首歌合　光俊朝臣

ゆふやましろの郭公のこゑ[illegible]おもかけに[illegible]

嘉元四年十二月当座百首　従三位為実卿

ほとゝきすまつよのゆめのすゑ[illegible]に[illegible]

正応二年百首　前内大臣

ほとゝきすきなくる人のありしころ[illegible]

嘉禄元年十禅師社にたてまつる百首

海へ[illegible]月さ[illegible]しみ[illegible]神のまへ[illegible]さるへき

文永九年毎日百首中

[illegible]のやまのさるへ[illegible]

[illegible]の郭公[illegible]

名所歌　信実朝臣

玉葉二

ちはやふる神のまへのこしのひ[illegible]

五月五日

天暦八年内の御かたにて御屏風に

貫之

ほとゝきすなくさとにしもあやめ草ねをたつねつゝけふそひくらし

家集虫尓

恵慶法師

けふひのをりしにひくあやめ草ねやもしれぬをけふそひくらし

家集五月五日

俊頼朝臣

あやめひくこゝろはふかくくみてしるやかてのけしきまさりける

けふさへのたよりによりてあやめ草ひきすてかたきねをそかけつる

家集騎村る

源仲正

あやめ草よそのやましきねはあやめ草ひきすつるゆゑそしられける

右衛門督

土御門内大臣

新六一

かくれぬのしたはふあしのねにたてゝひくやあやめのねさへそへつゝ

同年五月為摂政家之歌合百首

大納言通宗

うちわたすあさかのぬまのあやめ草ひけともつきぬなかきねそこれ

ゆふかけて田のさなへはとりにうゑしもけふはあやめのねさへひきける

左京大夫顕輔

建久二年四月廿六日右大臣家歌合

重成朝臣

ほとゝきすなくしけきさへ田のさなへうゑしもふかきねをそなく

家集庚申中

恵慶法師

わさなへをとりてうへけるまにまにもやまたのさはのあやめくさかな

家集西庄早苗　源仲正

きのふまて風にそよきし田にいつのまにかあをみそめけむ

常磐井百首門田早苗

かきよりの門田のさなへいつしかもひとつにそよくさなへとるみゆ

家集早苗　源親宗

さなへとるたこのさころもほしやらてさみたれの空いかにしのはむ

堀川院御時百首　前中納言匡房

さなへとるたこのもすそをそめつゝもとの田面にみとりそふらむ

宝治二年百首早苗　正三位知家卿

たかさとのさなへとりけむあらをたをかへしてもまたうつしうゑつゝ

前内大臣

ことしよりとしのとなへのさなへとりけふよりさとのかすもますらし

御集早苗　後京極摂政

五月雨にさなへとる人のすそまてもぬれつゝやうらみつゝゆく

文治六年女御入内御屏風早苗ところ　後法性寺入道関白

かよひこしそのゆふくれのさなへとりたなかゐのさなへとるまてに

後徳大寺左大臣

あさまたきのみつにうつしてさなへとるたこのさころもほすひまもなし

正三位季経卿

いそさとうちの里のさかきはかへまてしけりやらん

隆信朝臣

かさりおる玉かつらしけるのさか木はといくよろつ代かさねつゝみき

祇園社百首早苗　皇太后宮大夫俊成

いはひこし神田のさなへとるらんは綱のしめのうちにてそみる

寛喜元年女御入内御屏風山田早苗　従二位家隆

うへつくるやまたのなはしろさなへとるすゝてみちかきよのつきそみる

きしかたのゆくへもしらすおもひのまゝのさなへ　賢右大臣

武蔵野にて五月人代　民部卿為家

もろいろとさ月のよはぬきさそてけふなとゝものくさそもる

千五百番歌合　土御門内大臣

さみたれもさ月とはまりのひとはいつあやめ草のねをとしそけふや

万寿二年五月五日義忠朝臣家歌合八合中

よみ人しらす

菖蒲

皆かくらぬてもひくあやめなりけりとて

此判者九節の菖蒲の根いつ合の内の

右のよく年ことよみ人あつめつゝ菖蒲

の根なくてすりとすれはその名のこゝろとして

うるしへき左の哥をよみたりしをとさしける 一四六
あやめくさのあやめもわかすとよめりのこらち もちゐ
かくいはれたりひとつのことく
同哥合菖中 蓬
まろはをとこれハあやめくさのこえいをひまよおすこかなくよろしき
そのころまてハなかりしにそのえたしけるにすみさうのゆるしくるかさるに
判者前の人のたとへの院しとらへしとまくときて
そのへまりきの人にまつるすゝにとりてめけれ
てらすりはうくうと左のゝのん成うつきうり
まやかん訳のもとろるつる人写ぬハ露ハり
かけてなかれハ持とし人かつ人云々
康和二年五月五日仲実朝臣家哥合
堀川院中宮上総
わすれくさつみてもなにゝしのはれんいつしもさらぬ世にこそありけれ
藤原実義
まつしはたかくそのくれとさえそ人のなひとはまさりけり
以前判者仲実朝臣これにてまきとしまき
のところむしくしりてにつてよきけれ八昔人
と日のある月よるのころよきしうひてその
此まりき此人乃くれみくろとまりて京にあそく

いつくはあれとさくらもとりもいれとこそいへりとなん

菖蒲

題しらす　中納言家持

ほとゝきす待てとこなかすあやめくさ玉にぬく日をいまたとをみか

能宣朝臣

沼のさのいつとりたるあやめくさ袂のしつくひきそわつらふとなん

この哥ハくちきのかたにうちくく家屏風の絵に

さうふを舟につくとて沼なりける人の舟まてとなん

家集菖蒲　大納言経信

さはみつにおりひくあやめくさあらてあたにいりひつらし

家集　御形宣旨

こゝろさしのふかきにねりてひくあやめハ袖にかゝる

しらくもの見えし水のみきはにあやめくさねなかくひきて袂とつゝむ

禖子内親王家歌合五月五日菖蒲　宣旨

こゝよりもぬくのみのあやめハやとこそのねさしふかくそみれとそ

家集わかな(?)の詞　和泉式部

ありつゝもむかしのまゝのあやめくさひきつくすへきねやハのこれる

大宰権帥家歌合　前中納言匡房

あやめくさ見しのなかのうきねハちよのためしにはりける

献菖蒲

あさからぬ君とふかのあやめ草ひきならそそのかさ ねもひく
基俊

五月ひく江の澄にみゆるあやめ草いつもねなかそひく

老若五十首歌合　後京極摂政

なかさりし袖のあやめやかくてしもまてとゆかしともすこし とかし

御菜菖蒲を　法性寺入道関白

きみのやすりときのかひさしあやめ草ひくてあまたの さむ

久安百首　季通朝臣

けふすこりけとのうちとさみやとなれはあやめはりをさへく かけん

上西門院兵衛

こころのえのこそのあやめひさしくてこ江のそこにかくるね

承久二年四季百首暁　前中納言定家

いつはりもさらにあやめのさしなからまくらにおける あさ

六百番歌合　因幡守忠晨月識

こ江のそのかよくてもちられこそあやめのねは をしき

家集　信頼朝臣

判十

あやめかるあさかのぬまに風ふけはをちのさなへもなひきあひつつ

こころり　トヲノ藤本

紫式部

あやめくさやまのはのさとのうきねにかくれてとくるあやめのね かそひく

中務卿親王家歌合　権僧正公朝

いくとせのねをしのこれやかくれぬに人もしらぬあやめひくらん

家集さうふにそへて人のもとへつかはしける

五日　西行法師

ねりふかきひそむあやめやひかれましつまのねをもちかへつへかりけり

貞応三年百首沢昌蒲

つきもせぬいりえのぬまのあやめくさこの五月雨にかる人もなし　民部卿為家

五社百首　皇太后宮大夫俊成

みくりくるつくまのぬまのあやめくさひけとつきせぬねはなかりけり

なにはひとあしのやへふきあやめくさやかてなつくるやとのつまかな

こゑたてゝやまほとゝきすなくなへにあやめくさふくやとのつまかな

大嘗会悠紀方屏風

なかさしのいけのあやめにそてぬれてちよのためしにひくへかりけり

同集十首御会中沢昌蒲　後鳥羽院御製

くみてしるたまのえのあやめくさそのとしなみのねはなかりけり

家集嘉禎元年中　従二位家隆

あさりくるいりえのいけのあやめくさおりにあふねはこれなりけり

文治六年女御入内屏風　按察使大納言

あやめくさよるとてかへるしほ風にこよひのやとのつまにかをらん

菖蒲說　多識編に云

君かよにひきくらふれはよとのの菜あやめもあさしとそ見る

貞應三年百首 古池菖蒲　民部卿為家

ありねたりつくさのつけのあやめ草ゆるすへ人の袂くさしも

家集　光俊朝臣

かつみれはのえにこえしあやめ草ことしもそへてにほふかな

この歌ハ續古今の撰者にくハゝり侍ける

沙彌会中書王の命によ菖蒲とよまると云

家集 早菖蒲　源仲正

あやめくさひくやあさ沢のねをかくしてそまよすまのえにさなはしろ

住吉社三十首　從二位家隆

すみのえにひけるつきをあやめくさよのさ月やちとせなるらん

百首御歌　慈鎮和尚

すみのえのみきハのあやめかつてこそ人かゝめのまえに袖をかくらさし

みさらくあさやかなれて露おもくみさきよしるてかかるらさくかくる

西行上人

櫻ちるやさ沢かされ戸あやめ草とハたれかそらにやいはまくらん

此歌ハ家集に宮の院よ中の院より下よ菖

蒲つくさせうへうの侍ける人さうしのときみ此

ちいさうなりてしく打用ゐてよみ侍りと云々

正治二年百首　正三位季経卿

ほとゝきすあさくらはねのあやめくさいつかはおやのつまとなるらん

文保元年七社百首　民部卿為藤

軒ちかくおしあさくはへそのあやめくさいかにさつきをとりやかけゝり

五月こそ色のゆかりのあやめくさよそにはいとゝ見えもしらるゝ
なり

建保三年名所百首　順徳院御製

思ひのますたのいけのうきねにもあやめもひく袖のまとゐて

従二位家隆卿

夏目毎にいつかのねまつのあやめくさよそにはいつかしられものらん

従三位知家卿

あり毎へいつかのねまつのあやめくさよそにきえかへりそてかへりなん

貞永二年洞院百首名所菖蒲

民部卿為家

あやめかるあさかのぬまよりもとてかへりさまゆへこそ出るけふ

六條院

従三位範宗

きのふまであやめのさくらかゝるまて袖にかけよるやよるのこゝろ

家集東洞院菖蒲とて

前中納言定家

てをれつゝさゝしいりのあやめくさよそにもかゝるまことやしらん

毎日百首中菖蒲を　民部卿為家

としふれとあさくのあやめくさたえしとそまつはひくへき
なし

百首哥　大納言経信

ねりそてもさやうつすらむむかしの袖の香にほふなりけりと

後京極大臣

新六一
いつせんの夜は五月のみしかよをなにとおもひかねつるかなかへらむ

橘

題不知　中納言家持

万八
わかやとの花たちはなのいつしかもたまにぬくへくそのみなりなむ

従二位家隆

さつきやみくもまの月のみかけさへにほふかそてにかよふたちはな

野郷公との御哥に　従二位頼政

ほとゝきすはなたちはなのかをとめてなくはむかしの人やこひしき

家集　房中

おもひいてゝすみなれしさともむかしのそてのかをそのこしける人もなし

題不知　読人不知

万八
たちはなの花ちる里のほとゝきすかたこひしつゝなく日しそおほき

万七
かくしつゝわかおもふいもかよるのものたちはなのかをはきゝつゝそしのはむ

三方沙弥

万二
たちはなのかけふむみちのやちまたにものをそおもふいもにあはすて

藤原八束朝臣

万十九
あしひきのやまのまてれるたちはなのうつらのしつゝみるときとかなしきにもあるかな

長方　中納言長方卿

万十九 ころもぬのやとるも風の志ほやまた　あらぬ梅うすいろさし
君にさかけて

讀しらす　人丸

万十一 冬ちかみ花かちりくれと袖ふけてさみしみきえ世ひつきる

万十 たちのれのもえやしきとへむ梅しきんつゝまてすゝかたる

右近衛大將

万九 梅の花ちるかせのかほりは春の山風こひをおくれとも

久安百首　待賢門院安藝

はるの山ちるかせやさそふ花ちるもそらのれの人まつく

平祐擧

やまさとのこれちむのかけそてかのそしかはあくのさとん

家持集　小弁

わかやとのそれちるはむさ花ちらかゝやさえのさえまかやらん

百首　郁芳門院大輔

みかひの花ちるかのそへのさといゝ海しおかの花かえかやらん

郁芳門院安藝　権中納言長方卿

さちのれのそてかれくらすかさかさひ山もしてれいとかえね

百首以前盧橘子位山家量

慈鎮和尚

ひとゝせてむつましきの袖ぬれやもさらまくよそとうつ衣かな

康元二年毎日一首中　民部卿為家

ちとせふす猶さらにそれまちつものうへそれとききたなみひさす
らんと

百首御歌 閑居砧　光俊朝臣

さとはれしのよ秋はのとこの月さえてのそらにやよはたらくてうつ衣

六帖題　信実朝臣

かへさとのよゝさそられのこゑてあはまさるこゑにそひとしきりなる

堀河院御時百首砧　顕仲朝臣

わすれのこゑれもちむのうつれさよのうへにぞうつ衣

俊頼朝臣

さとりみのきこえつゝのよかりつゝこゑよそにちかきまつのよりこゑにうつ衣

百首御歌　光俊朝臣

かへるさかへるのこゑにまひるもちかきいまやうつらん

小野社一百首御歌　後嵯峨院御製

ゆふさりてたれひとよりさらぬものかは人の袖まくらん

御集百首御歌中　前太政大臣

よしあしやさつのさとにたえもちくれてこそきぬたうつ
らん

新撰六

あさなゆくよりさのやまの風にさそひすゝきとすそのさら
む

百首御歌

千五百番歌合　前大納言忠良

あらたまのむつきにかゝる袖にまた今日のあやめも猶かゝりけり
皇太后宮大夫俊成
うちかはすあやめのまくらかりそめにしらぬ心のなかきねそみる
御集　押小路内大臣
昨日より袖のたもとにかけそめてけふまたしのきにたちぬる
十題百首同年　後京極摂政
ゆふすゝみ袖のたもとのやかて人まてつゆけしのきにたちぬる
嘉元三年百首に盧橘　亀山院御製
わすれすよ右のつかさの袖にかけしもとのねやいまもかはらん
正治二年百首　後京極摂政
あやかれのむらさきのみなれそめしけふのあやめのかけの袖
百首　寂蓮法師
けふくれはいつかとまちしあやめくさのきのつまのとすそめの袖
千五百番歌合　従二位家隆
のきちかき月のひかりにかよふなり花たちはなに風そふく
五日郭公といふことを　西行上人
あやめふくのきにゝほへるたちはなにきてこゑくせよ山郭公
光台院入道二品親王家五十首夜盧橘
如願法師
かりそめにかはす一夜の袖のうへにうつりかはらぬかをるあやめそ

文永元年七社百首　民部卿為家卿

ひとしらぬたにしもとけさるみちならぬかひはいつまてもうす

さらにわかのむかし百首のそのかみにおもひいてゝも七ひかのかすうち

秋の月まつもさらうるこの志らへよかさともりすみわか君か代

袖さえ夜ゆきさえてかなへるらむもののけしきひろまてもやらん

そてかれしむかしさのにしのみやしさのくのうらむ

百首の中名所　土御門院御製

ちくれもすみよのみやしろのみかんしよもにいはるからむ

寛元三年結縁経百首中　民部卿為家

吹く秋さかれのさとかうときをしるもの色のうきのそら

建保三年十家百首中　夜梅　入道摂政太政大臣

うちむのふるやとものいすらむにほひそしるくのこるのかるさと

大納言為家卿

うめかてらのつかすみのみやひめのそてとまるかくのうちむ

千五百番歌合

ましきやのさえてかうちむしもなくしらぬやらん

中務卿親王家　右　大納言隆房

思ひいてゝたかおくりもしらしはあすのよそにすみわかるかも

百首の中　慈鎮和尚

わくらはにさくらのちるをやまさとのみよしのゝゆふかせ

或人乃以為よきちるらむのさくらへらるとこそ

大宰大貳高遠

あちこちのさくらへらうそおもちらのまりいつる河よりあらう

家集　好忠

さくらやころもまつろうのかりゆきてもなきさみしよかせそつける

禖子内親王家歌合花橘　小弁

なかきさくらのうへにすへてちらむの雲井のかりしともかくへきかな

寛和二年五月家歌合盧橘　源兼和

はなたちはなにけれはうらみつるむかしの人のそてのかそする

ゆふされは花たちはなのかをりのまにまつほとゝきすなく

天仁三年四月卿時家歌合郭公

仲実朝臣

ときはなるこえをつけて山たかくみれはなかにそ

禖子内親王家歌合梅　讃岐

梅かかをさそふかせにそおもひしるふたゝひかへるはるのこゝろを

百首歌盧橘　顕輔卿

なつかしきむかしをしのふたちはなの里はいつくもかせそかほれる

文治六年五社百首橘　皇太后宮大夫俊成

いにしへをしのふとそなくほとゝきすたちはなのかをそむかしにはにほふ

すゝのこまちれもうかりておもひくりかへてやまかしをひらん

六位蔵人梅　　新宮門大臣

新六
いかなれはあへもちりかのかへりふきよするすゑもとゝめすかん

信実朝臣

新六
あすよりはあへもちりかのそてかへすしらへきかのつえ

花橘

四首目前中務　　慈鎮和尚

このかとは伊勢まちうへをつれてさくらかあうかりうらか

国立公文書館
National Archives of Japan